

自立

とのむらひさこ

殿村久子

じりつせいかつ

自立生活30周年を語る

しゅうねん

かた

シリーズ1

生活

殿村久子さんが自立生活30周年をむかえました。そこで、おいたちから現在にいたるまでの自立生活運動との関わり、女性しょうがい者として、よく圧や差別とどう闘ってきたのかなど、波瀾万丈の人生を今だからこそ語ります。

### ひさこ かぞくけいせい 久子さんの家族形成はどうだったのですか？

家族は、父親は早くに亡くなったので、母親と姉と兄貴がいたんだけど、兄貴は私が物心ついた時には、外へ住み込みで働いていたので、土日しか帰ってこなかったんだけど。土日帰ってくると、ちょっと背の高い兄貴で、私を肩車して外に連れていってくれるのが大好きで楽しみで、海のほうにつれていってくれたりするのが嬉しかったのを憶えていて、姉とも6歳離れているので、姉の友達がきて、ちょっと一緒に遊んでもらって。でも姉も友達も遊びたい盛りだから、私の存在を遊んでいるうちに忘れるわけよ。(笑) けっこうね置き去りにされた事も何回かあって。

あとは近所の小さい子たちとちょっと一緒にままごとしたりとかはしてたけど、それぐらいかな。でも施設に入ったから、地域の友達とは遊べなくなってしまったので…

### しせつ はい まえ はい あと はなし き 施設に入る前と入った後の話を聞かせてください。

小学校1年の2学期から25歳まで施設で、その前までは実家において、1年生の2学期までは普通の学校にいったので、親が毎日おんぶをして連れて行ってくれた。けれど私は給食を食べたイメージがなくて、午前中で帰ってきてたんだよね。なんでだかわかんないんだけど。午前中だけ行って、お昼は帰ってき

てた気がする。親の都合だったのか、学校の都合だったのか、それはわかんないんだけど。

親は前から施設に入りたいと思ってたみたいで、施設の申し込みを、ずっと以前からしていたみたいなんだけど。なかなか順番が来なくて、それでやっと順番来たのが、1年生の冬

だったのかな。でも私は申し込みしてるのも聞かされてなかったから、突然、来週入所する10日くらい前かな。「お前はもう施設に行くんだよ」って言われて「えーなんで」って思ってたんで私だけ行かなきゃいけないんだろうっていうのと、全然聞かされてなかったから、嫌だったなあっていうのと。私その時、すごい髪を長くしてたの、それで毎朝親がしばってくれたんだけど、入るために切らなきゃいけないって言われて。「えーそれもー」って思ってた。その時におかっぱ頭に切られて、嫌だったんだけど。あと大好きなお人形がいっぱいあったんだけど、「お人形は一個だけ持っていっていいよ」って言われて、荷物の中に一個だけ大好きなお人形を入れて、持たしてもらったのを憶えてるかな。

あと持ち物には全部名前を書きなさいっていうのがあって、それもずっと毎日毎日、親が夜になると準備をしているのが、すごく嫌で、ほんとは行くんだなーっていうのを憶えています。

それでね、私はその施設で記録保持者で、入ったときに、みんな夜、ほら寂しくて泣くじゃないですか、みんな三日くらいであきらめるんだけど、でも私は一週間泣き続けて(笑)、夜9時前には消灯になるじゃんよ、それまで一人で寝たことなかったから、いつも親がお姉ちゃんとならんでたので、一人であんなでっかいベットに寝るのが嫌で、ギャーギャー泣いて、泣くとみんなに迷惑だからって言って、看護師さんが